

Contents

- 特集: 巻頭インタビュー「九州大学で活躍する女性たち」
- 仕事と家庭の両立・育児体験記「ワクワク・ライフ・バランス」
- Open Café 2026 ～九大OGに聞く! 学生生活やキャリアについて～
- イベント開催報告
- 数字でみる九州大学と男女共同参画 (第8回)
- ライフイベントに伴う研究継続支援
- 大学入学共通テスト時の一時保育について
- 男女共同参画推進室 蔵書紹介
- 今後のイベント
- 編集後記

特集 巻頭インタビュー

九州大学で活躍する女性たち



農学研究院

なか むら ま こ

中村 真子 教授

／ 略歴 ／

2002年大阪大学大学院医学系研究科博士課程修了、博士(医学)。Fox Chase Cancer Center, University of Massachusetts医学部で研鑽を積み、2007年九州大学農学研究院に着任。世界の食料問題解決を目指し、「平滑筋」の形成過程に関する研究を行っている。高校生～博士課程学生対象に「国際人材」の育成支援にも取り組んでいる。2024年10月より副理事として国際(教育研究、留学生)、国内広報、シチズンサイエンスを担当。

海外で学んだ「研究は仕事」という意識

研究者を目指すきっかけは、修士課程1年のときにアメリカで経験した2か月間の企業インターンシップでした。女性研究者がチームを率いる姿に、自分も博士号を取得し海外で研究したいと強く願いました。その夢を叶え研究機関で職を得て渡米しましたが、研究を仕事として成果を出し続けることは容易ではなく院生時

代との立場の違いを痛感しました。研究者として自信を無くす事も多々ありましたが、様々な国籍の同僚達が励ましてくれて乗り越える事ができました。

2007年に留学生担当講師として農学研究院に着任しました。毎年約200名の留学生全員と面談し、研究だけでなく生活や将来について話を聞きました。彼ら彼女らが海外(日本)で壁を感じる理由に深く共感し、それを乗り越えるサポートに奔走しました。その経験を通して、学生には研究室で見える姿だけではない様々な表情があることを学びました。この時の経験は現在の研究室運営にも生かされています。

「一番になりたい」と思っていた

2013年に准教授昇任後、大きな転機となったのが2019年に開始したSENTAN-Qプログラムへの参加でした。それまでは学生や部局など誰かのために頑張ることが多く、自分自身のために第三者に協力をお願いしなくてはならない研修内容にためらいを感じました。多くの方のサポートを受け、期待に応えなければと気の引き締まる思いで必死に取り組みました。アメリカ時代のボスがメンターとなり研究室運営について学べた事も大きな成果でした。

2年間の研修を通して、研究者として「もっと上を目指したい」「負けたくない」と思っていたのだと自分を解放することができました。その気づきは、今の私の大きな原動力になっています。

細胞の可能性を探り、人とともに研究を育てる

私の専門は、畜産学応用を目指した筋細胞生物学、動物発生学研究です。現在の研究テーマのおもしろさは、細胞一つひとつが持つポテンシャル解明に尽きます。同時に、個々の学生やスタッフが持つポテンシャルにも目を向け、自分一人では達成できないことをチームで実現していくことにも喜びを感じています。

ゼミでは日本人学生も英語で発表し、質疑応答もバイリンガルで行っています。多様な人が集まり互いに刺激し合える国際的な研究室を目指しています。

ひとつでは届かない場所へ

私は獣道を切り開いていくようなゼロから一を創ることにおもしろさを感じ、研究だけでなく留学生支援や教育プログラム開発などにも積極的に取り組んできました。2024年度からは副理事として大学運営にも携わる機会を得ました。

学生や若い研究者の皆さんに伝えたいことは、「やりたいことは全てチャレンジ!」です。一度に全てではできずに悩みますが、「卒業まで」や「来年末までには」など時間軸をずらし機会を探ります。色々な事に挑戦していると、それぞれの経験がつながり、一つだけでは届かなかったところまで行けると考えています。皆さんも九州大学が持つ豊富なリソースをぜひ活用して「チャレンジ」してくださいね。

❖ 仕事と家庭の両立・育児体験記 ❖

ワクワク・ライフ・バランス

「育休がくれたもの」

工学研究院 応用化学部門 助教 永井 薫子

2025年2月に第1子が生まれ、約1年間の育児休業を取得しました。2026年8月には第2子の誕生を予定しており、再び育休を取得するつもりです。

子どもとの時間を大切にしたいと考えて決めた育休でしたが、助教は代わりがきかない立場でもあり、研究室に負担をかけてしまう申し訳なさもありました。振り返れば妊娠中も思うように働けず…。それでも研究室の皆様は温かく気を配ってくださり、感謝の言葉が尽きません。

育休中は「ぴよログ」で体重や睡眠、授乳などを記録するのが、まるで実験ノートをつけるようで楽しい日々でした。日々可愛らしく成長していく我が子を眺めていると、セロトニンの海を泳ぐような幸せな気持ちになります。夫も育児に積極的で、2人で子どもと向き合えたことで育児はより一層楽しいものになりました。

妊娠出産を担う女性は特に、仕事と子育ての両立に悩むことがあるかもしれません。私も日々あれこれ悩んでいます。ただ、出産の前後で価値観は大きく変わるもので、先のことはそのときになってみないとわからない、「なるようになる」と思うようになりました。私にとって、育休がくれた家族時間は宝物になりました。これから育休を考えている方が、それぞれの「これでよかった」と思える選択にたどり着けたらと願っています。



Open Café 2026 ～九大OGに聞く! 学生生活やキャリアについて～

2026年7月4日(土)、九州大学女子卒業生の会「松の実会」および未来人材育成機構との共催により「第13回 Open Café 2026 ～九大OGに聞く! 学生生活やキャリアについて～」を開催しました。

本イベントは、本学卒業生(OG)を講師として招き、学生生活や現在の仕事、ライフイベントについて経験談を伺うものです。学生が卒業後の進路や働き方を具体的に思い描き、交流を通じて自身の将来像を考える機会を提供することを目的としています。2013年の初回開催以来、今年度で13回目を迎えました。

を学び、その経験が現在の業務にも生かされていると紹介されました。女性技術者が少ない環境においても、積極的にコミュニケーションを図りながら職場の信頼関係を築き、着実に成果を上げてキャリアを重ねてこられた姿は、参加者に強い印象を与えました。また田中氏は、「『やめたらいかんよ』と声をかけてくれる人たちの存在が支えになった」と振り返り、家庭や仕事、学生時代の友人とのつながりも大切にしたいと学生へ温かいメッセージを送られました。

稲田氏は、研究の魅力や困難を率直に紹介しながら、九大入学から現在に至るまでの研究者としてのキャリアを振り返られました。「誰も答えを持っていないからこそ、自ら考え、新しい方法を生み出すことが研究者の仕事である」と述べ、研究を続ける中でどのようにライフイベントと向き合ってきたのかなど、具体的な経験談を交えて共有されました。また、「人脈は必ず将来につながる」「キャリアと出産の順序に正解はない」との言葉は、学生に多様な生き方・働き方を考えるうえで深い示唆を与えるものでした。

講演後の交流会では、学生から就職や研究生活に関する質問が多く寄せられ、講師お二人が丁寧に回答されました。参加者からは「仕事と生活の全体像が明確になった」「リアルな話が聞けて良かった」との声が寄せられました。

今年度は、人間環境学府を修了後、現在はJR九州でご活躍されている田中侑美子氏と、工学府を修了後、現在は本学工学研究院准教授として研究・教育に携わる稲田幹氏の2名のOGを講師としてお迎えしました。

田中氏は、学生時代にチアリーディング部のキャプテンとして活動する中で、一人で抱え込まず周囲に頼ることの重要性

6/23から6/29は内閣府が定める男女共同参画週間です
九州大学男女共同参画推進室主催
九州大学女子卒業生の会「松の実会」・未来人材育成機構共催

Open Café 2026
九大OGに聞く!
学生生活やキャリアについて

2026/7/4 (土) 14:00 - 16:00
場 所: 伊都キャンパス 男女共同参画推進室 多目的スペース
対 象: 在学生、一般の方
参加費: 無料(飲み物とお茶菓子あり 対面開催)

様々な分野で活躍する九大OGをお招きして、これまでのキャリアやプライベートについてのお話を伺います。おひとりでは、大学院人間環境学府修士課程を修了後、JR九州の鉄道建設分野にて活躍されている田中侑美子さん。もうおひとりは大大学院工学府博士課程を修了後、本学工学研究院応用化学部門にて専攻されている稲田幹さんです。講演のあとは、スイーツドリンクを飲みながら、質疑に答ったり、みなさんとおしゃべりができる交流タイムを設けています。学生の方も、働いている方も、男女問わずご参加をお待ちしています。

九州旅客鉄道株式会社
人事部総務課(津島 祥子)

九州大学工学研究院
准教授 稲田 幹さん

田中 侑美子さん 稲田 幹さん

2014年 人間環境学府修士課程修了
2025年 工学府博士課程修了

九州大学男女共同参画推進室
URL: <http://kaku.kyushu-u.ac.jp>
E-mail: com@kaku.kyushu-u.ac.jp

5/18(月)より受付(6/30締切)
<先着20名> お申込はこちら



イベント開催報告 1

第1回ランチタイム交流会を開催しました

2026年6月2日（火）、「2026年度第1回ランチタイム交流会」をオンライン開催し、38名の教職員が参加しました。今回は、人間環境学研究院の小木曾航平准教授を講師に迎え、「がんばらない健康習慣 ルーシーダットンとヨガで整える、からだところろ」をテーマにご講演いただきました。

講演前半では、「がんばる」のではなく、自身の身体の状態に目を向け、本来の状態へと整えていくというルーシーダットンの考え方や、呼吸に意識を向けることの大切さについて学びました。また、自分の身体のどこが緊張しているのかに目を向ける時間を持つことで、無理なく健康を取り戻していくことができるという考え方が示されました。

講演後半では、椅子に座ったままできるセルフケアを実際に体験しました。椅子に深く座って腹部に力を入れる姿勢をはじめ、手のひらのマッサージや背中・腰のストレッチなど、デスクワークの合間にも無理なく取り入れられる方法をご紹介いただき、参加者にとって、自身の身体と向き合い、日常生活の中で続けられる健康習慣について考える機会となりました。

参加者からは、「座ったまま実践できるリフレッシュ方法を体験しながら学ぶことができ、午後からの業務がはかどっている」「がんばらなくていい、という考え方に共感した」といった感想が寄せられました。



イベント開催報告 2

オープンキャンパスに出展しました

2026年8月1日（土）、本学伊都キャンパスで開催されたオープンキャンパスにおいて、男女共同参画推進室は「その先に、なりたい私がいるーロールモデルと支援制度で描く“私の未来”ー」をテーマに、センター2号館1階2106教室でパネル展を開催しました。当日は猛暑にもかかわらず、高校生や保護者など95名の皆様にご来場いただきました。

会場では「九大で活躍する女性研究者」「九大の様々なデータ」「九大の様々な支援制度」「映像資料」の4つのテーマで展示を行い、写真や図表を多く取り入れたポスターのほか、高校生向けのジェンダー関連書籍も紹介しました。来場者が展示を熱心に見学し、映像資料や書籍にも多くの関心が寄せられました。



アンケートでは、「理系の女子は少ないから心配だったが、実際に活躍している人の話を読むことができてとてもよかった。」「色々な研究者の研究内容が知れた。また自分たちを励ましてくれるコメントがあるポスターがあって元気づけられた。」「今まで女の子が研究や大学院に進んだ先のイメージがわからなかったが、いろんな道が選べるということがわかった。」など、高校生から前向きな感想が寄せられました。

今回の展示を通じて、本学の研究環境や支援制度、ロールモデルとなる研究者の姿を高校生や保護者の皆様に広く紹介する機会となりました。

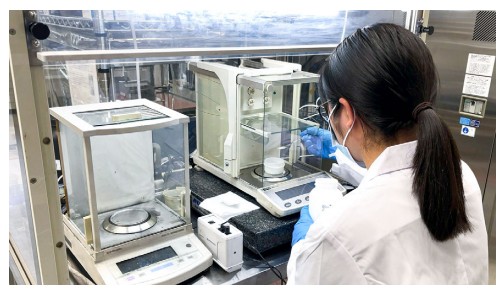


イベント開催報告 3

QURIESプログラムを開催しました

九州大学は令和3年度より、女子高校生を対象とした理工系インターンシップ「QURIESプログラム」を実施しています。本プログラムは、女子高校生の理工系分野への興味を広く喚起し、九州から世界へ羽ばたく優秀な女性研究者・技術者を育成することを目的としています。名称は、九州大学の理工系研究インターンシップという意味と、女性科学者のパイオニアであるマリ・キュリー博士の名前を組み合わせました。

令和8年度は54名の受講生が参加し、8月3日のオリエンテーションでは、園田理事の挨拶と萩島副学長によるプログラム説明の後、本学の若手女性研究者3名による講演が行われました。8月3日午後から7日午前中までの5日間、受講生はそれぞれの関心に基づき志望した研究室で実験や分析などの研究活動を体験しました。最終日の7日午後は受講生が研究発表を行う研究活動報告会が開催され、各研究室の指導教員や大学院生も参加し、活発な意見交換が行われました。ある研究室では、受講生が行った実験で貴重な調査データが得られ、指導教員も驚くという一幕もありました。ほかにも指導にあたった研究室の教員や大学院生から、受講生の高い意欲と吸収力に感心する声や、将来の活躍を期待する声が寄せられ、実りのあるプログラムとなりました。



数字でみる九州大学と男女共同参画

第8回

61.6%

この数字は、育児・介護休業法および女性活躍推進法に基づき公表した、本学における男性の賃金に対する女性の賃金の割合です。算出の対象は全労働者で、男性の賃金を100とした場合、女性の賃金水準は61.6となっています。管理職や上位職には男性が多いこと、また男性は正規雇用、女性は非正規雇用やパートタイム職員（時間雇用）が多いことなどが男女の賃金差に影響しています。

では、なぜ女性に非正規雇用や短時間勤務が多いのでしょうか。育児や介護のために退職したり、勤務時間を調整したりするケースは、現在も女性に偏る傾向があり、その背景には、家事・育児・介護の負担が女性に集中しやすい社会的な構造があります。

男女の賃金差は、個人の選択の結果としてだけではなく、その選択を左右する職場環境や社会的な役割分担の影響を受けています。この数字をきっかけに、性別にかかわらず、誰もが仕事と生活を両立しながら活躍できる環境づくりについて考えてみませんか。

注）賃金は退職手当および通勤手当を除く。人員数は役員、出向者、育児休業者を除く。対象期間は2025年4月1日から2026年3月31日まで。

詳しく知りたい方はこちら：https://danjyo.kyushu-u.ac.jp/data/女性の活躍推進企業データベース%20_%20九州大学.pdf

ライフイベントに伴う研究継続支援

本学ではライフイベントと研究活動の両立を支援するため、2つの支援を実施しています。2024年度から両制度とも女性研究者に加え、男性研究者も申請可能となりました。

● 研究補助者雇用支援

- ・ 出産・育児、介護等で研究時間の確保が困難な研究者に対し、研究補助者の雇用経費を支援します。
- ・ 各期（春期、秋期）5件程度採択
- ・ ひと月あたり5万円を上限に最大12ヶ月支援

● 出産・育児復帰者支援

- ・ 出産・育児による研究中断から円滑に復帰できるよう、リスタートのための経費を支援します。
- ・ 4件程度採択
- ・ 支援上限額50万円

※ 採択者は審査により決定。採択率の半数は女性優先枠。

※ 採択数等は変動する場合あり。

詳細は各制度のページをご覧ください。

<https://airimaq.kyushu-u.ac.jp/university-relations-only/>（学内限定）

お問い合わせ 研究・産学官連携推進部 研究企画課研究企画係
E-mail: kissen@jimu.kyushu-u.ac.jp Tel: 092-802-2323

大学入学共通テスト時の一時保育について

2027年1月16日（土）・17日（日）に実施される大学入学共通テストにおいて、伊都地区で一時保育を実施予定です。

- ・ 利用対象：大学入学共通テスト業務に従事する教職員で、0歳～小学校3年生までのお子さんがいる方
- ・ 保育場所：伊都地区 ゲストハウス（予定）
※ 予算の都合上、伊都地区のみとなります。
- ・ 保育時間：7:00～22:00頃
- ・ 利用料金：無料（大学経費負担）

お問い合わせ 男女共同参画推進室
E-mail: event@danjyo.kyushu-u.ac.jp



男女共同参画推進室 蔵書紹介

『なぜ男女の賃金に格差があるのか—女性の生き方の経済学』

- ・ クラウディア・ゴールディン 著／鹿田昌美 訳
- ・ 慶應義塾大学出版会、2023年4月発行
- ・ ISBN 978-4-7664-2847-6

2023年に女性として初めてノーベル経済学賞を単独受賞した経済学者、クラウディア・ゴールディンによる著作です。アメリカの大卒女性100年の歩みをたどりながら、「なぜ男女の賃金格差はなくなるのか」という問いに迫ります。女性たちが各時代で直面した制約と、そのなかで下してきた選択を描くとともに、賃金格差の背景には個人の能力や意欲ではなく、長時間労働や時間的拘束を前提とした仕事の構造があることを、歴史と豊富なデータをもとに明らかにしています。男女の賃金格差を個人の問題ではなく社会の仕組みとして捉え直し、これからの働き方について考える視点を与えてくれる一冊です。



今後のイベント

● 11月5日（木）13:00 女性職員対象

エンカレッジメントセミナー

「身近な先輩に学ぶ—私たちの働き方を考える—」

身近な先輩職員によるトークセッションを通じて、多様な働き方や経験に触れながら、自分らしい将来の働き方を考えます。

● 11月26日（木）13:00 教職員、学生対象

ワーク・ライフ・バランスセミナー

「始まる前に知っておきたい！仕事と介護の両立—認知症・お金・老人ホーム・ケアマネジャー選びの基本—」

親が元気なうちからできる備えと、早めに専門職へ相談するポイントを知り、安心して働き続けるための介護体制づくりを考えます。

● 12月（予定）12:10 教職員、学生対象

第2回ランチタイム交流会

「文書資料を量的に読んでみる—テキストマイニングで何が見えるのか」

精読で細部は見えても、全体の傾向はつかみにくいもの。「日本のフェミニズム」を題材に、テキストデータを量的に俯瞰し、そこから精読へとつなぐ視点を探ります。

編集後記

「数字でみる九州大学と男女共同参画」は、普段気づきにくい現状や変化を知る良い機会となっています。研究継続支援の対象拡大や健康・介護に関するセミナーなど様々な取組も充実し、男女共同参画、仕事と生活の調和を図りながら誰もが活躍できる環境が、さらに広がることを期待しています。

（薬学研究院 麻生 真理子）

編集

九州大学男女共同参画推進室 企画広報環境整備部門 企画・広報WG

伊藤 裕之（芸術工学研究院 教授）、藤 智亮（芸術工学研究院 教授）、麻生 真理子（薬学研究院 准教授）、

中川 剛志（総合理工学研究院 准教授）、横山 美貴（男女共同参画推進室 職域限定専門職員）

読者の声 /
をお聞かせください。
アンケートにご協力をお願いいたします。

